

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
2025年度第2回企画運営委員会 議事要旨

1. 日時：2026年3月5日（木）10：00～11：53

2. 開催方法：ハイブリット形式

3. 出席者（敬称略）：

<委員長>

田中 希幸 ガラスびん3R促進協議会 理事・事務局長（同行者：脇坂 光）

<副委員長>

根村 玲子 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
環境委員会委員長

<委員>

加藤 聡 一般社団法人ガラス再資源化協議会 代表幹事
水越 由佳 一般財団法人消費科学センター 企画運営委員
高橋 宏郁 スチール缶リサイクル協会 専務理事
細川 浩之 一般社団法人セメント教会 生産・環境部門リーダー
横川晋太郎 電気事業連合会 立地電源環境部長
奥田 篤 一般社団法人日本ガス協会 規格部エネルギー・環境グループ マネージャー
井出 安彦 公益社団法人日本包装技術協会 包装材料研究室長

<オブザーバー>

山本 裕徳 国税庁 課税部酒税課団体企業係 国税実査官
大谷也真登 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
矢野 晃 厚生労働省 医政局医薬産業振興・医療情報企画課 企業係長
町田 春菜 経済産業省 イノベーション・環境局 GX グループ資源循環経済課 企画調整係長
菅原 利幸 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長補佐
音峰 大吾 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画第二係
今中 大輝 環境省 環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室

<事務局>

黒岩 進 一般社団法人産業環境管理協会 専務理事
古賀みずまる 一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター 所長
加藤 聡 一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター 技術参与
高橋 恵美 一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター 主査
高橋 太雅 一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター 室員

4. 次第

- 次第1. 委員名簿
- 次第2. 2025年度活動実績
- 次第3. 2026年度活動計画
- 次第4. 中期的な活動の見直しについて

5. 資料

<委員会資料>

- 資料1. 2025・2026年度企画運営委員会 委員名簿
- 資料2. 2025年度活動実績
- 資料3. 2026年度活動計画
- 資料4. 中期的な活動の見直しについて

6. 議事要旨

次第1. 開会

定刻に委員会を開始した。続いて事務局から配付資料と出欠状況を確認した。
以降、田中企画運営委員長の進行のもとで議事を開始した。

次第2. 2025年度活動実績

事務局から資料2により説明した。特に質問はなかった。

次第3. 2026年度活動計画

事務局から資料3により説明した。主な質疑等は次のとおり。

(優秀3R推進活動発表会)

事務局より意見募集：理事会総会と別に開催することとしたいが、いかがであろうか。

・理事会総会と別に開催するとなると発表会の開催時期は自由度が生まれるという認識で間違いはないか。
事務局回答：ご質問のとおりである。

・表彰の様子を写真に撮って、ホームページに掲載するなどの企業があるが、大臣賞で別日に大臣などを訪問する企業などがあれば日程を合わせて、その日に発表をしてもらうのはいかがか。

事務局回答：表彰式では会長賞も含めて表彰しており、受賞者やその関係者はそこで写真撮影をしている。別日に大臣を訪問したという話は事務局としては認識していない。

・表彰式の際に受賞者にプレゼンしてもらうという案はどうか。

事務局回答：表彰式で内閣総理大臣賞はプレゼンしていただいているが、その他の省庁の大臣賞は年度ごとに受賞者の有無や人数の増減の幅が大きいいため、困難と考えている。

・今年度の受賞者が10月に決定するのであれば、それ以前に行わなければならないのではないか。

事務局回答：ご意見のとおりと考えるため、遅くとも夏頃までにはオンラインで実施するよう進めたい。

・今年度の上期にオンラインで行うことが現実的と考える。

事務局より確認：令和6年度、7年度の表彰者を対象に令和8年度の発表会を行うこととしたい。

議長が意見等を問うたところ、異議なしと認められた。

(3R推進ポスター)

・人件費等で郵送費が値上がりしていると説明があった。しかし2026年度予算は2025年度と同額となっていることに問題はないか。

事務局回答：少し予算を超える可能性もあるが、経費を抑えられるように鋭意努力することで同額程度に収める考えである。

事務局より提案：2027年度のポスター募集についても今年度同様に2026年度内から事業を開始してよろしいか。

議長が意見等を問うたところ、異議なしと認められた。

(3R・資源循環推進フォーラムとの共催セミナー)

・事務局の負担を鑑みて共催セミナーを無理に共催セミナーやリレーとせず、2026年度の年明けくらいとすればいいと思うため、3R・資源循環推進フォーラムや細田会長と協議するのはどうか。

事務局回答：フォーラム事務局とも検討したい。

(その他)

・経済産業省や環境省が推し進めるCPsと協議会の関連したものが事業計画に含まれているか。なければ、リンクする部分もあるので検討してもらいたい。

事務局回答：現在は関連事業等の予定はない。動向は押さえていき、一緒に活動できる場所があれば、先方の事務局に声をかけていきたい。

・CPs総会にて経済産業省が3Rの重要性に言及されていたが、企画運営委員会活動に予算支援等はないか？

経済産業省回答：CPsとリデュース・リユース・リサイクル推進協議会はまだリンクしていないが、関連して活動できないか内部で検討中である、

・年間のスケジュールとして、理事会・総会が6月、ポスター事業はGW明けを募集締切とし7月に選考を行い、その後権利関係の確認や印刷などになる。また上期には優秀3R推進活動発表会も入るのでタイトなスケジュールになっているが、10月最終週に3R推進功労者等表彰があり、それ以降は落ち着いてくると考える。

次第4. 中期的な活動の見直しについて

事務局から資料3により説明した。主な質疑等は次のとおり。

・中期的な活動の見直しは総会での承認が必要となるものなのか企画運営委員会のみで決定できるのか。
事務局回答：総会において企画運営委員会で決定し実施することの承認を得ている。

・今回の企画運営委員会でこれらの内容を確定するのは困難であるとする。

事務局回答：中期的な活動の見直しにあたるため継続的に議論を行う。必要であればワーキンググループなどを設置し企画運営委員会とは別に議論を行う案も考えられる。

・3R連絡会については定期的開催ではなく大きな局面などに合わせてスポットで行うのが良いのではないか。

(3R・資源循環推進フォーラムとの共催セミナー)

- ・優秀3R推進事例発表会と(共済)3R・循環経済先進事例研究発表会は内容が似通っているため、セミナーの位置付けや名称を整理するのが良いと考える。
- ・(共済)リレーセミナーについては特定の事象のみでなくグローバルな知識を得る位置付けとするなど中期的な活動の見直しとしてセミナー全体の整理も考えるのが良いと思う。
- ・各セミナーの訴求対象などはセミナー毎に決めていき、それに合わせて資料配布や公開の度合いを決めていくことが良いと考える。

(3R推進ポスター)

- ・ポスターデザインコンテストの課題について学生が工場や工事現場などへのメッセージを考えられないのではという課題が挙げられていたが、工場などで働く人達であっても、むしろ一般消費者の目線に近くて良いと思う。仕事の中で行うものは事業活動に含まれているので、あえてメッセージしなくてよいのではないかと思う。
- ・ポスターの掲出方法については、ホームページのバナーやWEB広告に掲載するなど改善の余地があるが、広く一般消費者向けというのは費用の面から困難であるのと協議会のホームページになかなか見に来てくれないので、結果的に会員団体に向けになると思う。

(ホームページ)

- ・中長期的にはホームページを検討する際にはアクセス解析をして、どのページがどのくらいみられているのか時系列的にみて一年間のなかで季節的な変動があるのかなど分析したうえで議論したほうが良いと思う。

(中期的活動について)

- ・協議会の事業は重要なものであるが予算や事務局の人員も限られている。従って、事務局が行うコアな事業(HP管理・表彰・ポスター)と将来への事業とに切り分け、中期的には国が推進するサーキュラーエコノミーの情報収集をしたり協議会の方向性を議論したりするところから始めれば良いと思う。
- ・普及・啓発活動については、現在市民を想定しているようだが、次世代、子どもたちに向けた活動(情操教育など)に軸足を移していくことが必要ではないか。例としては大学の環境工学を学ぶ学生に協議会の活動を知ってもらい、小学校の端末を使ったオンライン学習で利用してもらえるようにすることができないか検討していく必要があるのではないか。出前講座なども参考になる。

その他

- ・加藤委員から2030年の太陽光パネル廃棄に伴う約30万tのガラス処理を資源循環できるように動いているとの情報提供があった。また、自動車関連ではBlueRebirth、太陽光パネルでは太陽光パネルリユース・リサイクル協会(SP2RA)など先端的な協会があるので協議会に参加してもらえると良いと思うとのコメントがあった。

11時53分に終了した。

以上